

# 看 護

## 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

### (1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

看護科においては、これまでも看護の見方・考え方を働かせ、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うため、看護臨地実習等を通して、看護の各科目で習得した知識と技術の深化及び統合を図るとともに、問題解決能力や創造性を育むこと、さらに看護師として学び続ける力を育成することを目指して取り組んできた。

こうした中、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（令和6年12月25日）では、変化の激しい時代において、生徒は生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が改めて示されており、各科目の指導に当たっては、看護師として学び続ける力を育成するため、学びの質を高め、主体的・対話的で深い学びの実現によって、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが重要である。

そのためには、看護科の各科目の中で生徒の「自己肯定感」を育成するとともに、「自己効力感」を高める工夫も必要となる。例えば、実習後の振り返りにおいて、反省点や課題について確認するだけでなく、うまくできた点や、よかった点についても確認し、自己の成長を確かめる場面をつくることなどが考えられる。



### (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」については、学習に対して粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を、学習場面における観察やワークシートへの記載内容などから評価することが考えられる。例えば、実習におけるワークシートへの記載については、実習中の気付きや取り入れたい工夫点のほか、本単元での学びや経験を振り返り、自らの実践に生かそうとしているかなど、記載内容から読み取り評価することなどが考えられる。

また、ICT 端末を活用して、実習の様子を動画で記録し、技術の習熟度が見える化することで、生徒が自分自身の技術の向上を実感することにつながるほか、主体的に学習に取り組む態度を評価することもできる。

ワークシートの記載内容から読み取る「主体的に学習に取り組む態度」の評価例（評価A）

○適切な清拭を行う際の工夫について書きなさい。

・顔や陰臀部は患者さん自身で拭いてもらうことで羞恥心の配慮だけでなく、爽快感を得やすくなるので、患者さんのADLに応じて自分で拭ける患者さんには、自身で拭いてもらう。

・2人ペアで行う際には、互いの役割をしっかりと分担して実施する。また、役割分担だけでなく、お互いに声を掛け合っ行うことで時間の短縮につながるようにする。（他の援助でも共通）

・冷たいタオルで清拭されると不快感が強かったので、ベースンの湯温はこまめに確認し、50～55℃を維持するようにすることが大切。

次の実践に取り入れたいことを記載している。

実習で気付いたことについて記載している。

## 2 指導と評価の計画例

### (1) 基礎看護の計画例

ここでは、単元「環境調整」の指導と評価の計画例と、指導上の留意点や評価における具体的な考え方を示している。

本単元においては、人々の健康にとって望ましい環境条件及び環境条件が健康に及ぼす影響を踏まえ、療養の場に応じて生活環境を整える事例を取り上げ、人々を取り巻く人間関係の調整について基本的な知識と技術を習得し、活用できるようにすることをねらいとしている。

#### ア 単元の目標

(ア)	環境調整の援助について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(イ)	環境調整の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見い出して表現する。
(ウ)	環境調整の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとする態度を養う。

#### イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
環境調整の援助について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	環境調整の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見い出して表現している。	環境調整の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（5時間） ◎：記録に残す評価 ○：指導に生かす評価

次 【時間】	ねらい、学習活動等	備考 (生徒のB規準)	評価の観点		
			知	思	態
1 【1時間】	【援助の基礎知識】 療養生活や病室の環境、アセスメントと調整について理解する	環境要因の種類と影響について理解できる。	○		
2 【1時間】	【援助の基礎知識】 ベッド周囲の環境整備の実際について学ぶ	療養者の状態に応じた調整内容について理解できる。	◎	○	
3～5 【3時間】	【援助の実際】 ベッドメイキングの実際について学ぶ	環境を整えた上でベッドメイキングを実施できる。		◎	◎

## エ 学習指導案（3～5時間目／5時間中）

校内で援助技術に関する実習を行う場合、生徒には、事前に、教科書を参考にして、関連する根拠とともに手順書を作成させ、それに基づき実習を行うことが望ましい。その際、生徒は、実際の援助の場面をイメージすることができないまま手順書を作成していることもあるため、手順が分からず、円滑に実施できない状況があることや、実施して初めて分かる手順もあることなど、技術の習得までには多くの時間を要することが考えられる。

こうした課題に対応するため、本事例では、手順書を整理する学習（ベッドメイキングに係る手順書作成）を通して、看護技術及び状況に応じた看護実践を学ぶ授業例を示す。

学習内容		生徒の学習活動	指導上の留意事項	【観点】■評価方法
導入	生徒自身が作成した手順書の確認	<b>【グループ学習】</b> ・事前に配付した「生成AIで作成した手順書」の不足部分についてグループで確認する。	・前時に生成AIで作成した手順書に対して、不足部分を追記し、本時に臨むよう指示する。 ・グループに一つずつメンバー全員が共有できる「生成AIで作成した手順書」ファイルを準備する。 ・メンバー各々が追記した内容を違う色を使用して入力させる。 ・他のメンバーと同じ内容であっても入力させる。	「不足のある手順書」は生成AIを使用して作成する。  Google スプレッドシートを使用してコピー＆ペーストで行う。
展開1	グループで一つの手順書を作成する。	<b>【グループ学習】</b> ・メンバーの入力した不足部分を整理する。	・グループで一つの手順書を完成する。 ・同じ内容は整理する。 ・根拠が不足していないか教科書等を使用して確認する。	
展開2	手順書どおりに実習を行い、細かな留意点や根拠を見付け出す。	<b>【グループ学習】</b> ・実際にベッドを使用して、下シーツの頭側三角を作成する。 ・崩れない三角のポイントをまとめる。	・頭側の三角を作成後、足側から対角線にシーツを引っ張り、三角が崩れないか確認する。 ・三角作成時は動画撮影を行い、崩れない三角を作成するポイントをまとめる際に使用する。 ・崩れない三角を作成するポイントをまとめる。 ・崩れた場合は何が問題点なのかグループで考える。 ・崩れなかった場合は作成者がどのようなことに気を付けて作成したのか、よくできていた部分はどこなのかグループで考える。	<b>【思】</b> ■ワークシート①
まとめ	まとめ	<b>【グループ学習】</b> ・手順書を根拠・留意点とともに完成させる。 ・リフレクションを行う。	・グループで一つの手順書を完成する。  ・メンバーと協力して完成させる中でメンバーの良いところを確認する。	<b>【態】</b> ■ワークシート②

## オ 学習の進め方や学習評価の工夫

### (ア) 生徒が主体的に課題を解決する学習の単元計画

看護科の生徒が、主体的に課題を解決する学習を実現するためには、校内実習において、生徒自身の看護実践における改善点を理解することが大切である。

本事例のように、生徒自身が作成した手順書を基に実習を行う際には、実習を行う前の手順書には不備があるということを理解させることが重要である。作成した手順書を基に実習を行い、生徒が自らの看護実践に改善の余地があることに気付き、振り返りを通して、よりよい手順書の作成や、状況に応じた看護実践につながる留意点を考えることができるように授業を展開することが大切である。

こうした学習の際には、自身の援助を客観的に確認するために、次のような指導も考えられる。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①手順書を作成させた後、下シーツの頭側三角を作成させる。<br/>(生徒は「できた」と感じている)</li> <li>②下シーツを足側から対角線に引っ張り、頭側三角が崩れるかどうか確認させる。<br/>(生徒は「できていない」ことに気付く)</li> <li>③どのようにすることで崩れない三角ができるか、実施しながら留意点を整理させる。<br/>(生徒に「できるようになった」ことを感じさせる)</li> </ul> |
|--|

(イ) 生徒の主体的な学びを実現する ICT の活用

生徒に提示する「生成 AI で作成した手順書」では、必要な手順が不足していたり、根拠が不十分であったりする場合がある。本事例では、この不足のある手順書を教材として活用し、不足部分を補う作業をする。個人で取り組むことに加えて、グループで考えたことをまとめることで、手順書を充実させている。

ベッドメイキング手順書	
手順	根拠・留意点
1 手洗い又は手指消毒を行う	感染予防の基本であり、清潔操作を守るため
2 ベッドの高さを作業しやすい位置に調整する	腰痛予防、作業効率の向上のため
3 マットレスを確認し、湿気や汚れがないか確認する	
4 マットレスパッドを敷く	マットレスパッドは足元から頭元に向けて敷く
5 下シーツを敷く	中心から左右に引っ張り、しわのない状態とし、褥瘡や不快感を予防する

生成 AI で作成した手順書

また、本事例では、ICT 端末を活用し、生徒が協働的に学ぶことができるよう、次のとおり学習を進めている。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①グループメンバー全員が、それぞれで学習してきた手順や根拠をグループのスプレッドシートに入力する。</li> <li>②メンバーが入力した内容を整理して一つの手順書にまとめる。</li> <li>③手順書に基づき実習を実施する。</li> <li>④失敗も含め経験させ、気付いたことや留意点を詳細に記入させる。</li> </ul> |
|---|

<ワークシート①>

手順	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	根拠・留意点	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
1 手洗い又は手指消毒を行う					感染予防の基本であり、清潔操作を守るため				
	リネン類は上から使用する順に輪を手前にしてのせる	必要物品を準備する	使用する物品を上から使用する順にのせる			輪を手前にする ことで、必要物品 及使用順の確認 が容易になるため		輪を手前にして のせる	
2 ベッドの高さを作業しやすい位置に調整する	作業しやすいように、床頭台などを移動して作業スペースを確保する。ベッドの高さを調整する				腰痛予防、作業効率の向上のため	作業スペースを確保することで、短時間で作業することができるため			
	ベッドの車輪を全て異なる方向に向け、ストッパーをかける					異なる方向に向けるとベッドが動きにくくなり、安全にベッドメイキングを行うことができるため			
3 マットレスを確認し、湿気や汚れがないか確認する	生徒一人につき1列使用し、自身が追加した「手順」や「根拠・留意点」を入力する。					手順の追加がある場合には、該当場所に行を追加して入力させる。			

生成 AI が作成した手順

生徒が入力した手順

生成 AI が作成した手順の根拠

生徒が入力した根拠

<完成した手順書> ※下線部は生徒が追記した手順

NO.1	
日常生活援助計画	
令和 年 月 日 ( )	
実習施設:	実習生: 組 番 氏名
実習病棟:	受け持ち患者: 号室 氏名
援助項目: ベッドメイキング	
目的① 患者が安全安楽に療養生活を送ることができるような清潔なベッドを作る	
②	
必要物品 マットレスパッド 下シーツ 防水シーツ 横シーツ 枕 枕カバー	

  

手 順	実施上の留意点 (根拠)
1 手洗い又は手指消毒を行う	・感染予防の基本であり、清潔操作を守るため
2 <u>上から使用する順にワゴンに必要物品を準備する</u>	・上から使用する順に積み上げることで、作業効率をよ くする
3 ベッドの高さを作業しやすい位置に調整する	・腰痛予防、作業効率の向上のため
4 ベッド周囲の物品をベッドから離す	
5 <u>ベッドのストッパーがかかっているか、キャスターの向きを内側にする</u>	・ベッドメイキング中にベッドが動く、看護師のケガ に繋がるため
6 マットレスを確認し、汚れや湿気がないか確認する	
7 マットレスパッドを敷く	・マットレスパッドは足元から頭元に向けて敷く
8 <u>下シーツを敷く</u> <u>1) 頭側・足側の余っているシーツを、左右同時にマットレスの下に入れ込む</u> <u>2) 頭側・足側のベッドの角を三角にする</u> <u>3) 手背は常に上向きでシーツを入れ込む</u> <u>4) 足側の余っているシーツを入れ込む前に、対角線でシーツを引っ張る</u>	・中心から左右に引っ張り、しわのない状態とし、褥瘡 や不快感を予防する ・三角は角が崩れにくい ・ベッドの金属部分で手に損傷を負うのを防止するため
9 防水シーツを敷く	・失禁や浸出液による汚染を防ぐため
10 横シーツを敷く	
11 枕カバーを枕にかけ、ベッドの上部に置く。 <u>枕カバーの茶った部分は、内側に折り込む</u>	・縫い目が患者に当たらないようにする
12 <u>ベッドを元の位置に移動する。ストッパーやキャスターを確認する</u>	

生徒が追記した手順や根拠は、これまで学んだ内容を基に記載されている。

※この用紙は必要な援助項目について記入して提出する。  
修正・追加については修正・追加した部分が分かるように記入する。

ワークシート①に添って実践し、その援助手順を振り返り、実習で使用する手順書の様式に整理し記載する。

生徒が追記した手順には、実際にベッドメイキングを行う際に配慮すべき事項や、患者の視点に立った留意点が盛り込まれている。

生成 AI では一般的な作業の流れが理解できる一方、援助者や患者の視点が反映されていない場合もあるため、日頃の実践的な学びを生かし、追記することで、実際の援助手順に近いものとなり、臨地実習等で活用できるほか、学習による学びの深まりを実感することにつながる。

(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体例

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する事例として、次のワークシート②を使用する事例を紹介する。

<ワークシート②>

ベッドメイキング振り返りワークシート

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. ベッドメイキングの実習で、「できたこと」を書きなさい。

2. ベッドメイキングの実習で、「難しかったこと」「できなかったこと」を書きなさい。

3. 次回の実習に向けて「改善できる点」や、「工夫できる点」を具体的に書きなさい。

(ウ)参照

4. グループメンバーの「良かったところ」を書きなさい。

(I)参照



写真：実習後の振り返りの様子

○ 十分満足できる (A) の評価例

3. 次回の実習に向けて「改善できる点」や、「工夫できる点」を具体的に書きなさい。
- ・何度も練習することは当然だが、ただ何度も練習するのではなく、目標を設定してペアで実習した方が時間を無駄にすることなく実習できる。
  - ・ペアで積極的にコミュニケーションをとり、連携がとれると作業時間を短縮することができる。
  - ・先生方や友人から沢山アドバイスをもらい実習を行った方が、技術の向上に繋がるのでアドバイスをもらうようにする。
  - ・三角は角が落ちないようにしっかりと押さえることで、きれいに作成できるようになる。

改善すべき点や工夫できる点について下線部のとおり、具体的に書かれている

○ おおむね満足できる (B) の評価例

3. 次回の実習に向けて「改善できる点」や、「工夫できる点」を具体的に書きなさい。
- ・放課後の時間も利用して、何度も練習する。
  - ・先生方に見てもらい、できていないところを教えてもらうようにする。
  - ・シーツ類を引っ張ったつもりだが、どうしてもリネンにたるみができてしまった。

改善すべき点を明確にできているが、改善点が明確に記載されていない

○ 努力を要する (C) の評価例

3. 次回の実習で、「改善できる点」「工夫できる点」を書きなさい。
- ・何度も練習する。

改善点及び工夫すべき点が記載されていない



練習する内容やそう感じた理由などを、明確にさせるよう指導する。

(エ) 自己肯定感・自己効力感を高めるリフレクションにおける指導の工夫例

実習後の振り返りにおいて、反省点や課題について確認するだけでなく、できたところや、よかった点についても確認し、自己の成長を確かめる場面をつくるようにする。ここではワークシート②にグループメンバーのよかったところについて記載した際の事例を掲載する。

4. グループメンバーの「良かったところ」を書きなさい。

ベクトル作成で相方が先に三角を作ったときに、作りおわって私が作るうとしたとき、「反対側お願いします」といわれたり、対角線にシートを引くときも、「引っぱりますよ。セーの。」という声かけがとても良かったです。

4. グループメンバーの「良かったところ」を書きなさい。

シートのたたみ方がわからなかったとき、何が困ったものの、たたみなおすこともすぐ行動に移すことができていた。  
また「次はなにをやるんたらけ」とならず、できほきと重ねていて、とてもスムーズに行うことができた。

日常の実習においては、改善点・反省点は見取りやすい一方、自己の成長は感じ取りにくい面がある。実習後のリフレクションにおいて、よかった点、できた点を互いに共有することで、看護師に向けた成長を感じ、自己肯定感・自己効力感を高められる工夫をすることが大切である。